

焼岳（2455m）

2015年4月26日(日) 晴れ

メンバー：磯部S(リーダー)、池田T、磯部N、手塚、佐藤Y、久保田J、宮本

春山に向けてトレーニングのため、日帰りでも雪山トップを踏める焼岳を目指した。
当初は乗鞍岳を考えていたが残雪多く、除雪作業が間に合わずバスが日帰り可能な地点まで入れなかったため、急きょ変更になってしまった。
林道状況の確認は、この時期、特に必須である。

沢渡手前の道の駅で仮眠、翌朝、安房トンネル手前を右折、くねくね曲がって中ノ湯温泉先の夏登山口まで入ることができた。
除雪もここまでされていて、助かる。車も10台近く止めてあってもうすぐ満杯状態。

登り始め少しトラバースして、いきなり雪の急斜面直登の為アイゼンを着ける。しばらくがんばれば、やがて穏やかな樹林帯の台地となる。
ちなみにここを正月に来た時は、胸ラッセルもあったと言うから様変わりである。



稜線コルで、少しもくもくとした噴煙らしきところが、焼岳北峰。左の立派な南峰は登山禁止。

テントもあったがなるほど安らぎを感じる場所だ。年取ったらここまで酒を持ち上げて宴会三昧、翌朝焼岳往復も悪くなさそうだ。
直に噴煙を上げた焼岳が上方ブルースカイライン上に見えた。そこから足下までスプーンでくり抜いたような長く美しい雪渓が続く。
なんてすばらしい光景だろう！これを日帰りで堪能できるなんて！今まで知らなかったことを悔やむくらいの感動だった。



カールっぽい広い雪渓をもくもくと登る。青と白のコントラストがさわやかだ。

青い空に向かって、一步一步頂上に近づいていく。当然登りっぱなしなのでゆったり休めるところはないが、その開放感はバツグンだ。
左右の落石に気をつけながら、頂上直下の岩頭を右に巻いてわずかに上れば、あっけなく雪のない頂上に着いた。



中央平地が大正池から上高地。左手前から奥に続く穂高への稜線がかっこいい。

登山者も20数名いただろうか、にぎわっていた。
ここからは眼下に上高地全景、目の前にはここから続く穂高連峰のどっしりした山並みが広がり、圧巻である。
むろん笠や乗鞍も見渡せ、最高の展望台だ。



雪のない広い頂上で、槍穂をバックに記念撮影。

下りは快調、雪が適度に緩んで安定したステップを刻める。池田さんのみ山スキーで、無線で連絡を取りながら二手に分かれた。

彼はみんなの羨望のまなざしを浴びつつ、滑らかな曲線を描き気持ちよさそうに下降していった・・・。



きっきまったー！山スキー野郎。吊り尾根も見事。

雪渓下部では、シリセードで遊んだ。陽気で雪が緩んでいるため滑りは悪かったが、楽しんでいる感いっぱい。

すばらしい景色に別れを告げ、樹林帯に入る。腐った雪に時折足を潜らしながら急下降し、登山口に降り立った。

温泉は、そこから2, 3分の中ノ湯温泉に立ち寄り、これまた露天に入りながら穂高を望むことができるという贅沢三昧。

今回は、めずらしく全てにおいてパーフェクトな1日を過ごすことができよかった（この冬4度目にして初登頂だし！）。

<タイム> 中ノ湯新登山口（7:50）－焼岳（12:00-12:30）－中ノ湯新登山口（15:20）

（磯部S記）

以上